

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	ALTとの積極的なコミュニケーションを目指した小学校教員の外国語不安を軽減させる研修プログラム
プログラムの特徴	外国語不安を軽減するために、①外国語不安に対する理解、②英語表現及び非言語コミュニケーションの習得、③外国人との実践的なコミュニケーション体験を通して、英語によるコミュニケーションを積極的に取りながら、自信を持って授業を行おうとする小学校教員の養成を目指す。そのために、英語表現の練習だけに留まらず、非英語圏の言語での会話や非言語コミュニケーション、さらには実際に英語圏のネイティブ・スピーカーを使っての模擬授業を組み込み、参加者自らのコミュニケーション能力を最大限に引き出す研修となっている。また、世界26カ国から160人以上の留学生が集う国際教養大学を会場にすることで、英語圏・非英語圏の留学生を積極的に研修に活用し、教室でのALTとのティーム・ティーチングの疑似空間を作り出す。さらに、研修最終日に行う模擬授業では、国際教養大学が連携している地域等の小学生（40人）に参加を募り、より実践的な研修にする。

平成26年3月

機関名：国際教養大学

連絡先：〒010-1292 秋田市雄和椿川字奥椿岱 193-2

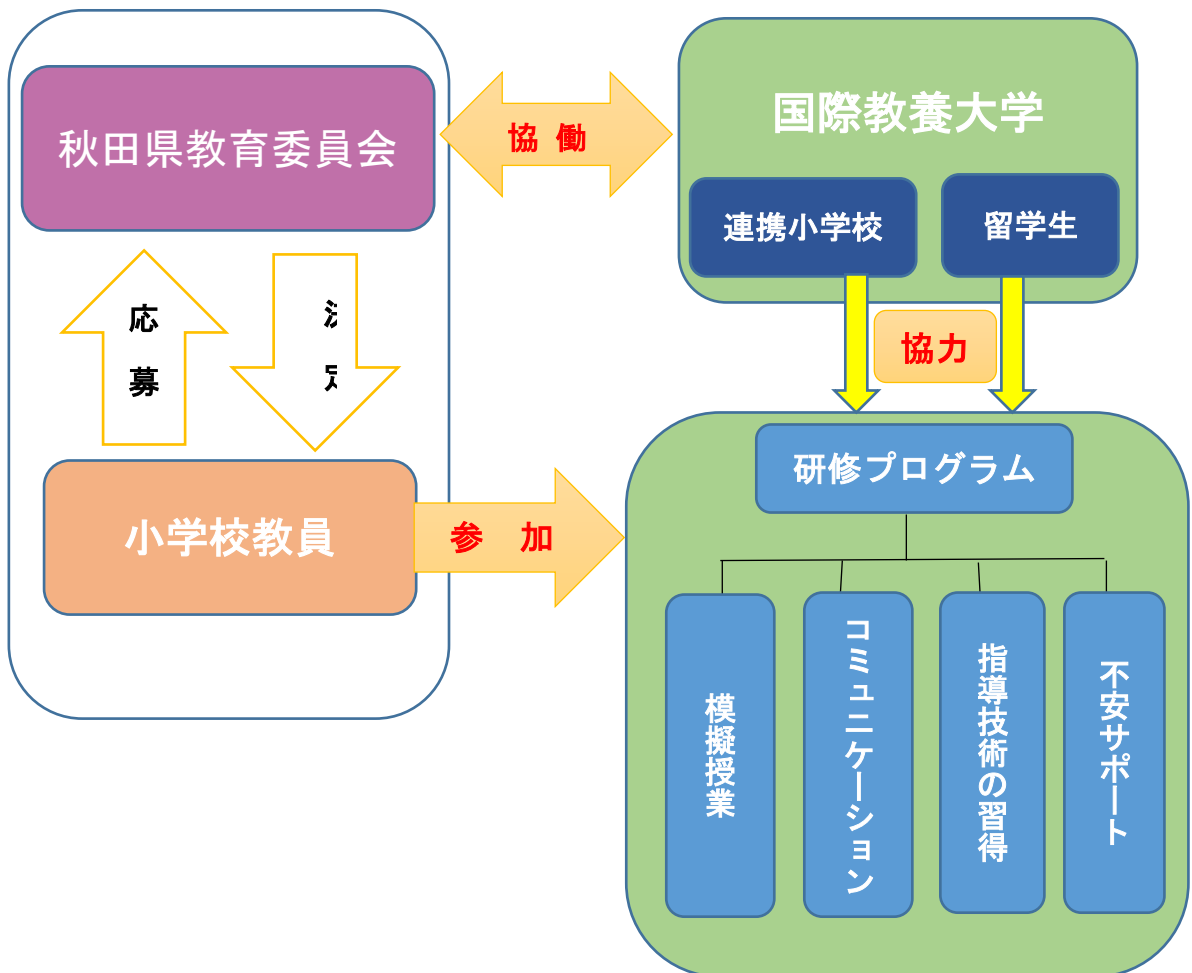
教授 内田浩樹 (uchida1659@aiu.ac.jp)

助教 町田智久 (tmachida@aiu.ac.jp)

プログラム全体概要

本研究プログラム（図1）は、秋田県教育委員会が実施していた既存の小学校英語教員研修のフォーマットを利用し、「外国語不安の軽減」を目的に各講座の内容を作成し直し、県内の小学校教員に対して実施した英語集中教員研修である。秋田県教育委員会が小学校教員の参加者について募集・決定・召集を担当し、研修の運営に携わった。国際教養大学は、研修内容の作成及び実施を担当した。その他に、国際教養大学の人材活用として、外国人留学生をALT役で研修に参加させ、また大学の地域との連携を生かして地元小学生にも参加してもらいながら研修を実施した。

図1. 小学校教員の外国語不安を軽減させる研修プログラムの全体概要



I 開発の目的・方法・組織

1. 開発の目的

国際教養大学は、平成 20 年から秋田県教育委員会と連携して小学校における英語教育に関する課題に取り組んできた。平成 24 年度も秋田県教育委員会と協力し、小学校教員の抱える外国語不安に関する調査を実施した。その結果、90%以上の小学校教員が英語に対して自信が持てず不安を抱えていることが分かった。これまでの研究から、外国語不安を抱える教員は授業中に対象となる外国語（この場合、英語）を使わない傾向にあり、学習者の外国語学習に影響を及ぼすと言われている。そのため、外国語不安を軽減させ、英語を積極的に使った指導を行う小学校教員の養成は「あきた発！英語コミュニケーション能力開発事業」を展開している秋田県教育委員会にとっても重要な課題となっていた。そこで新たな教員研修の開発・実施に向けて、国際教養大学と一層連携していくに至った。この研修プログラムでは小学校外国語活動を指導する秋田県内の小学校教員を対象とし、自身の今ある英語能力を駆使してコミュニケーションを行う機会を多く取り入れることで、外国語不安を軽減させることを目的としている。これにより、もともと高いと言われている秋田県の小学校教員の指導力を十分に発揮させ、ALT とも英語によるコミュニケーションを積極的に取ろうとする姿を教室内で子どもたち見せることで、児童への効果的な英語指導へとつなげていく。

2. 開発の方法

プログラムの開発に向けては、「外国語不安の軽減」というプログラムを通した目的を、4つの柱（①不安に対するサポート、②実践的な指導技術の習得、③英語によるコミュニケーションの成功体験、④ティーム・ティーチングの模擬授業）を設定して各講座の内容を決定した。

① 不安に対するサポート

ここでは、外国語不安そのものに対する理解を深めるとともに、不安を軽減するための方略の習得やアクティビティーを中心に実施した。多くの参加者が外国語不安の存在については体験等から気づいてはいるものの、その原因や発生のメカニズムについては詳しく理解していなかった。そのため、外国語不安に対する理解を深める講座を研修の最初に組み込んだ。さらに、理解した上でどのようにその不安を軽減していくかという手立てについて学ぶ講座を、プログラムの中に組み込むこととした。

② 実践的な指導技術の習得

外国語不安に対する理解を深めながら、同時に具体的な英語の知識や指導技術についても研修を深めることで、不安の軽減につながると考えた。そのため、ここでは「英語と日本語の発想の違い」「音声記号を使った発音習得」「教材提示の順序」「ALT

との授業前・授業中に使う英語表現」についての講座を設置し、参加者の指導技術の向上をねらった。英語の言語上の特徴を日本語と比較しながら提示したり、具体的な教材を題材としながら授業を効果的に進める上でのヒントを解説するなどした。

③ 英語によるコミュニケーションの成功体験

ここでは、参加者自身に自分の英語（非言語行動やブローケン英語も含める）が伝わったという喜びを体験させることで、英語を使うことに対して自信を持たせるためのアクティビティーを中心に実施した。具体的には参加者を4人ずつのチームにし、そこに国際教養大学に在籍する海外からの留学生を1人ずつ割り当て、コミュニケーション活動をしてもらった。国際教養大学は、世界26ヵ国から167人の留学生が学んでいる。皆、自国言語の他に英語が堪能でその上で第三言語も話せるなど、多言語話者が多い。その豊富な人材を活用して、コミュニケーション活動を実施した。

④ ティーム・ティーチングの模擬授業

この研修では外国語不安の軽減を目指していることから、単独ではなくALTとのティーム・ティーチングを想定した模擬授業を参加者に課した。ここでも国際教養大学の留学生を活用した。その理由は、現在各小学校に勤務するJETプログラム等のALTは、米国等の大学卒業者ではあるが日本語能力や日本の学校教育に対する知識も教授経験もあまりない。その状況から考えると、国際教養大学の留学生もネイティブ・スピーカーが多いことから、実際のALTの経験や知識とさほど変わらない。そのため、留学生をALT役として活用することとした。また、地元の小学生40人にも児童役で参加してもらうことで、より現実の教室状況に近い形で模擬授業をおこなった。具体的には、4人からなる各班に20分間の授業を実施してもらった。各班の中では1人が5分ずつALT役の留学生とのティーム・ティーチングをおこない、教材は『Hi, friends!』を使用するものの、全ての班が異なる課を担当した。

3. 開発組織

プログラムの開発に関わり、国際教養大学と秋田県教育委員会とで作業を分担した。国際教養大学側は、内田、町田、佐々木の三名の教員が具体的なプログラムの中身（各講座の内容）を作成・実施し、職員三名が事務処理及び研修当日の運営作業に当たった。一方、秋田県教育委員会は、指導主事五名を含む七名の職員がプログラムの枠組みの決定（ロジ、日程等）、参加者の募集・決定・召集、研修当日の運営作業を担当した。本研修の開発体制及び講師陣については以下の通りである（表1）。

表1. 本研究プログラムの開発体制

	所属・職名	氏名	担当・役割	備考
国際 教養 大学	国際教養大学大学院・教授(英語教育実践分野領域長)	内田浩樹	研修プログラム企画・開発・運営責任、全体統括と連携、教材開発、プログラム総合評価責任、県教委と講師陣との連絡・調整統括、研修講師	英語教育[修士]
	国際教養大学英語集中プログラム・助教	町田智久	県教委と大学との連絡・調整、研修プログラム企画・開発・運営・評価、事務処理、研修講師	教育学[Ph.D.] 英語教授法[MA]
	国際教養大学英語集中プログラム・講師	佐々木有紀	研修プログラム開発・運営・評価、教材・資料編纂責任、研修講師	英語教授法[MA]
	国際教養大学地域連携支援チーム・リーダー	伊藤美香	渉外、小学校との連絡・調整統括、事務処理、研修の運営	
	国際教養大学地域連携支援チーム	小杉和夫	研修の運営	
	国際教養大学地域連携支援チーム	鈴木一徳	研修の運営	
秋田 県 教育 委員 会	秋田県教育庁高校教育課・副主幹(兼)班長	小椋富二	研修プログラム執行統括	
	秋田県教育庁高校教育課・副主幹	関谷美佳子	県教委と大学との連絡・調整、プログラム総合評価、参加者の募集・召集、研修プログラム運営・連携、研修講師	
	秋田県教育庁高校教育課・指導主事	安田和人	研修の運営	
	秋田県教育庁高校教育課・指導主事	珍田良浩	県教委と大学との連絡・調整、参加者の募集・召集、研修プログラム運営・連携、研修講師	
	秋田県教育庁北教育事務所・指導主事	石井むつみ	研修の運営	
	秋田県教育庁中央教育事務所・指導主事	相馬 仁	研修の運営	
	秋田県教育庁南教育事務所	小西 力	研修の運営	

また、カリキュラムを作成するために国際教養大学を会場として、担当者間の協議会（打ち合わせ会）を定期的で開催した。この協議会では、研修の枠組みや各講座の内容、さらには具体的な評価の方法や研修運営における諸課題についてなど、国際教養大学と秋田県教育委員会の担当者が必ず参加して実施した。具体的な日時及び協議会の開催内容については、以下の通りである。

- 第1回（4/24）：研修内容の概要の決定、秋田県教育委員会との連携の在り方等
- 第2回（5/7）：研修の形態及びプログラムの概要について
- 第3回（5/29）：事務手続きについて、担当教員の決定、教室確保状況等
- 第4回（6/11）：事務手続きの進捗状況、各研修内容の詳細について
- 第5回（6/26）：各研修内容の準備状況、データ収集のための小学校訪問の予定等
- 第6回（7/18）：事務手続きの Update、参加者のグループ分け、各研修の最終確認
- 研修プログラム（8/5-8/9）**
- 第7回（9/19）：プログラムの評価方法、参加者からのフィードバック等
- 第8回（10/16）：プログラム評価のまとめ、データ集計結果の取りまとめ
- 第9回（11/11）：報告書作成に関する協議等
- 第10回（12/17）：来年度に向けての課題や連携のあり方について

II 開発の実際とその成果

1. 研修カリキュラムの構成

本研修カリキュラムは、4つの柱（①不安に対するサポート、②実践的な指導技術の習得、③英語によるコミュニケーションの成功体験、④ティーム・ティーチングの模擬授業）で構成されており、それぞれの柱の講座は以下の通りである。

① 不安に対するサポート

ねらい：外国語不安そのものに対する理解を深めるとともに、不安を軽減するための方略を習得する。

「外国語活動の現状」（8/5, 10:10-11:25、国際教養大学 町田）

（講義内容）文部科学省や秋田県内のデータをもとに、外国語活動授業の現状について概説するとともに、参加者に普段の授業について意見交換させ、各グループ内でのウォーム・アップ活動とした。

「外国語不安概観」（8/5, 12:25-13:40、国際教養大学 町田）

（講義内容）外国語使用時に感じる不安について概説するとともに、各参加者の不安指

数についても計測し、現在の不安状態について認識させた。また、不安の対処法についても最近の研究例をもとに解説した。



「効果的なティーム・ティーチングについて」(8/7, 9:20-10:35、国際教養大学 町田)

(講義内容) 外国語活動で使用頻度の高い担任と ALT による教師間のティーム・ティーチングについて、代表的な指導形態及びそれぞれの特性について実践例を取り入れながら概説した。

② 実践的な指導技術の習得

ねらい：具体的な英語の知識や指導技術を習得し、英語指導に対する自信を向上させる。

「英語と日本語の発想の違いについて」(8/5, 13:55-15:10、国際教養大学 佐々木)
(講義内容) 日本語との発想方法の違いについて言及しながら、英語での発想の仕方を解説した。日本語から英語へ逐語訳するのではなく、今ある自らの英語能力を使って物事や考えを英語で表現する方法を指導した。

「指導手順とその意味・基礎」(8/6, 9:20-10:35、国際教養大学 内田)

(講義内容) 外国語活動における教材作成の仕方について『Hi, friends!』を使用しながら提示し、効果的な使用方法について具体例を示しながら解説した。さらに、活動の提示順における誤りの分析も行わせた。



「指導手順とその意味・応用」(8/6, 10:50-12:05、国際教養大学 内田)

(演習内容) 前時の講義で学んだことを参考にしながら、グループごとに最終日の模擬授業へ向けて教材作成させた。模擬授業のトピック(担当する課)は、全てのグループで異なるように設定した。

「授業打ち合わせ及び運営に使う英語表現1」(8/6, 13:05-14:20、国際教養大学 町田)

(講義内容) ネイティブ・スピーカーとのチーム・ティーチングの際に効果的な英語表現について解説し、各グループ内で練習させた。

「英語の音声について」(8/7, 10:50-12:05、国際教養大学 内田)

(講義内容) 英語の音声面での指導に際し、国際音声字母(International Phonetic Alphabet)を使って正しい発音について指導するとともに、参加者が今ある英語力を使って効果的に行えるリズム指導の方法等について解説した。



「ビデオによる授業観察」(8/8, 9:20-10:35、秋田県教育委員会 関谷・珍田)

(演習内容) 昨年県内で行われた小学校外国語活動の授業ビデオを参考にし、指導方法・教材使用・授業展開について各グループで話し合い、より効果的な授業について考えさせた。

③ 英語によるコミュニケーションの成功体験

ねらい：教員自身が自分の英語(非言語行動やブローケン英語も含める)が伝わったという喜びを体験することを通して、英語を使うことに自信を持つ。

「異・非言語コミュニケーション体験」(8/7, 13:05-14:20、国際教養大学 佐々木)

(演習内容) 国際教養大学に留学している非英語圏の留学生を各グループに配置し、彼らの母国語を使ってのコミュニケーションを参加者に行わせた。参加者には外国語

を学ぶ児童の気持ちを疑似体験させると同時に、意思疎通の際に必要な非言語コミュニケーションの有用性についても気付かせた。



④ ティーム・ティーチングの模擬授業

ねらい：研修で学んだことを生かしながら、より実践的な教室環境でティーム・ティーチングによる英語の授業をおこなう。

「授業打ち合わせ及び運営に使う英語表現 2」(8/8, 10:50-12:05 & 13:05-14:20、国際教養大学 内田・町田・佐々木、秋田県教育委員会 関谷・珍田)

(演習内容) 国際教養大学に留学している英語圏の留学生を各グループに配置し、ネイティブ・スピーカーとの間で行われる授業前の打ち合わせ及び、授業内での意思疎通の際に広く使われる英語表現を実践・練習した。さらに、翌日に行う模擬授業のための授業打ち合わせも、英語及び非言語コミュニケーションを使って体験した。



「ネイティブ・スピーカーとの模擬授業」(8/9, 9:20-12:05、国際教養大学 内田・町田・佐々木、秋田県教育委員会 関谷・珍田)

(演習内容) 前日に打ち合わせをした指導案に沿って、ネイティブ・スピーカーとともに、連携している地域等の小学校から参加している小学生に対して、各グループで20分間ずつ模擬授業を行った。



「授業をおこなっての振り返り」(8/9, 13:05-14:20、国際教養大学 内田・町田・佐々木、秋田県教育委員会 関谷・珍田)

(演習内容) 他グループや児童役の子どもたちの感想を参考にしながら、グループごとに実施した授業に対してフィードバックを行い、改善点について話し合った。



2. 研修カリキュラムの日程 (表2)

平成25年度小学校外国語活動教員研修事業 研修日程		A: G1~G5 B: G6~G10		国際教養大学&秋田県教育委員会	
日程	8月5日(月)	8月6日(火)	8月7日(水)	8月8日(木)	8月9日(金)
諸連絡 9:10~9:15		A・B<レクチャーホール>	A<D202> B<D204>	A・B<レクチャーホール>	A<D202> B<D205>
ワークショップ1 (9:20~10:35)	*開講式 9:30~10:00 <レクチャーホール> ※8/5のみ9:30の開会	A 指導手順とその意味(基礎) 内田浩樹(国際教養大) <レクチャーホール> B	A 効果的なティーム・ティーチング 町田智久(国際教養大) <D202> 英語の音声 内田浩樹(国際教養大) <D204> B	A ビデオによる授業観察 珍田良浩・関谷美佳子(県教委) <レクチャーホール> B	A ネイティブ・スピーカーとの 模擬授業 内田・町田・佐々木(国際教養大)、県 教委 <D202> B ネイティブ・スピーカーとの 模擬授業 内田・町田・佐々木(国際教養大)、県 教委 <D205>
ワークショップ2 (10:50~12:05)	A 外国語活動の現状 内田・町田・佐々木(国際教養大)、県 教委 10:10~11:25 <レクチャーホール> B	A 指導手順とその意味(応用) 内田浩樹(国際教養大) <D202> B 授業打合せ及び運営に使う英語表現 町田智久(国際教養大) <D204>	A 英語の音声 内田浩樹(国際教養大) <D204> B 効果的なティーム・ティーチング 町田智久(国際教養大) <D202>	A 授業打合せ及び運営に使う英語表現 2 内田・町田・佐々木(国際教養大)、県 教委 A・B<レクチャーホール> G1<D103> G2<D104> G3<D105> G4<D201> G5<D202> G6<D203> G7<D204> G8<D205> G9<D206> G10<レクチャーホール> B	A ネイティブ・スピーカーとの 模擬授業 内田・町田・佐々木(国際教養大)、県 教委 <D202> B ネイティブ・スピーカーとの 模擬授業 内田・町田・佐々木(国際教養大)、県 教委 <D205>
(12:05~13:05)	昼食・休憩 11:25~12:25	昼食・休憩			
ワークショップ3 (13:05~14:20)	A 外国語不安概観 町田智久(国際教養大) 11:25~13:40 <D202> 英語と日本語の発想の違い 佐々木有紀(国際教養大) 12:25~13:40 <D204> B	A 授業打合せ及び運営に使う英語表現 1 町田智久(国際教養大) <D204> B 指導手順とその意味(応用) 内田浩樹(国際教養大) <D202>	A 異・非言語コミュニケーション体験 佐々木有紀(国際教養大) <レクチャーホール> B	A 授業打合せ及び運営に使う英語表現 2 内田・町田・佐々木(国際教養大)、県 教委 G1<D103> G2<D104> G3<D105> G4<D201> G5<D202> G6<D203> G7<D204> G8<D205> G9<D206> G10<レクチャーホール> B	A 授業を行っての振り返り 内田・町田・佐々木(国際教養大)、県 教委 <D202> B 授業を行っての振り返り 内田・町田・佐々木(国際教養大)、県 教委 <D205>
諸連絡 (14:25~14:30)		A<D204> B<D202>	A・B<レクチャーホール>	A<D204> B<D202>	
ワークショップ4 (14:35~15:35)	A 英語と日本語の発想の違い 佐々木有紀(国際教養大) 13:55~15:10 <D204> 外国語不安概観 町田智久(国際教養大) 13:55~15:10 <D202> B	模擬授業準備 G1・2<D204> G3・4<D203> G5・6<D202> G7・8<D205> G9・10<D206>	模擬授業準備 G1・2<D204> G3・4<D203> G5・6<D202> G7・8<D205> G9・10<D206>	模擬授業準備 G1<D103> G2<D104> G3<D105> G4<D201> G5<D202> G6<D203> G7<D204> G8<D205> G9<D206> G10<レクチャーホール>	*開講式(14:30~15:00) <レクチャーホール>
	諸連絡 15:15~15:20 A<D204> B<D202> 模擬授業準備 15:20~15:40 G1・2<D204> G3・4<D203> G5・6<D202> G7・8<D205> G9・10<D206>				
県教委担当者	◇小椋、関谷、珍田、石井	◇珍田、相馬	◇珍田、安田	◇関谷、珍田、安田	◇小椋、関谷、珍田、安田、小西

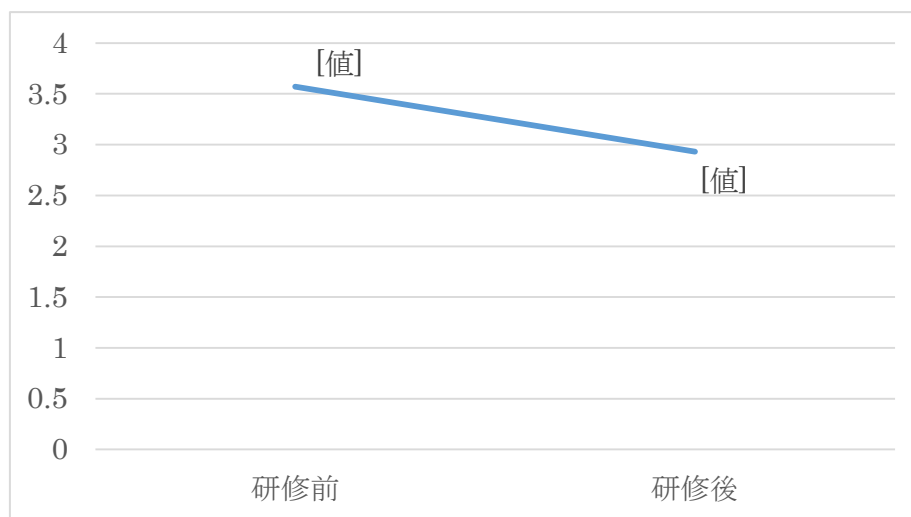
3. 研修成果の評価方法及び評価結果

①参加教員の外国語不安の軽減について

研修に参加した小学校教員の外国語不安の軽減については、外国語不安スケール (Teacher Foreign Language Anxiety Scale: Horwitz (2008)) を使用し、研修の前と後での参加者の外国語不安指数を測定し比較した。このスケールは、18問からなる調査項目に参加者が5段階評価で自らの不安の程度を回答し、その平均を各個人の外国語不安指数とする。本研究では、研修参加者39名の全体像についての外国語不安軽減の傾向について調査するため、39名の各指数を平均した値を研修前と研修後で比較した。

図2に示したように、研修参加者の外国語不安は5日間の研修の前後で大きく軽減している。外国語不安スケールでは、平均値が3.00以上で不安があるとされており、それ未満では不安はあまりないとされている。本研究では、研修前の参加者の外国語不安の平均値は3.57であり、全体として外国語不安があった。しかし、5日間の研修直後にはその値は2.93となり、研修参加者の外国語不安は大幅に軽減された。

図2. 研修参加者の外国語不安指数の変化



②研修プログラム全体について

研修プログラム全体の評価については、研修参加者による講座ごとの内容に関する4段階評価及び、記述式による全体への評価を使用した(表3・4)。各講座内容については、「4:大いに満足、3:満足、2、不満、1大いに不満」の項目から各研修参加者が評価し、その平均値を示した。また、プログラム全体に対して

は、記述式の自由意見とした。大部分が研修の有効性や自らの研修成果をふまえた肯定的な意見であったが、今後の研修の運営方法や活動に対して改善を求めるような建設的な意見も見られた（表4）。代表的な意見を以下に抜粋する。

表3. 研修参加者による各講座の評価

期日	ワークショップ名	平均 (4段階)
8/5/2013	外国語活動の現状	3.28
8/5/2013	外国語不安概観	3.74
8/5/2013	英語と日本語の発想の違い	3.82
8/6/2013	指導手順とその意味（基礎）	3.97
8/6/2013	指導手順とその意味（応用）	3.92
8/6/2013	授業打合せ及び運営に使う英語表現1	3.63
8/7/2013	効果的なティーム・ティーチング	3.72
8/7/2013	英語の音声	3.97
8/7/2013	異・非言語コミュニケーション体験	3.84
8/8/2013	ビデオによる授業観察	3.76
8/8/2013	授業打合せ及び運営に使う英語表現2	3.87
8月5日～9日	模擬授業準備～模擬授業～振り返り	3.92
8月5日～9日	研修全体として	3.95

表 4. 研修全体への意見

- 5日間とてもハードな研修だったが、来た甲斐があった！という内容だった。期待以上の内容。
- 初日から模擬授業の準備ができたのはとてもよかった。
- 教具の準備に、たくさんの材料や教材を提供いただいて大変助かった。
- 実際の子ども相手に、研修の成果を形にする本研修はとてもよかった。
- ALT 役の留学生は、とても好意的に授業に参加してくれた。自分の英語が伝わった感動は、子どもたちも同様でないかと思った。
- AIU という研修の場がとてもよかった。講義棟、カフェテリア、図書館等、素晴らしい環境で研修でき、幸せだった。
- 英語に対する不安は受講前よりは下がりました。クイックレファレンスの表現を生かしながら、少しずつ前向きに英語を使っていこうとする意欲が出てきました。
- 自分の今の英語力でも、何とかやっていけるかもという気持ちになったことが一番の変化です。発音や QR の講義でたくさん英語を話したので、学校に戻ったらぜひ使ってみたいと思うほど、気持ちが高まりました。この気持ちを持続させて2学期以降がんばります！！
- 初めは不安でしたが、日々の研修を行ううちに細かい手立てがわかったり、発音の仕方がより明確になったり、留学生とコミュニケーションがとれたりしていくうちに、不安がへってきました。これからは、恐れずにどんどん英語を使って、ALT の先生ともっともっとコミュニケーションを取って、楽しみながら英語の勉強をし、子どもたちの意欲を高められるようにしていきたいと思います。
- とにかく、今よりもっと積極的に関わっていこうという気持ちが高まりました。
- 外国語不安を他の人も抱えていることが分かったのが大きな収穫です。そして、ALT の立場も気持ちも分かったような気がします。コミュニケーションの大切さ、英語で伝える時の思考の方法も分かりました。
- 帰宅してからも英語を口ずさんでいると、中3の娘から「どうしたの？」と不思議がられました。そのくらい英語づけ（どっぷりと英語にひたれた）1週間になりました。そして、かなりの不安が解消された研修になりました。二学期以降は、ALT と協同で授業者づくりをしたいと思います。他班のものもふくめ模擬授業の中で得た素晴らしいアイデアの数を1つでも多く授業の中に生かしていきたいです。

△ハンドアウトを講義の前にいただくと、ポイントをメモできて助かる。

△5つの模擬授業をまとめて振り返るのは難しかった。

△各ワークショップの評価用紙、グループ日誌、QR のアンケート、外国語不安に関する調査等が多く、その日のうちに全て提出するのは大変…伝えたいことが十分に書けず残念。

Ⅲ 連携による研修についての考察

① 連携を維持・推進するための要点

本研究において国際教養大学と秋田県教育委員会との連携は大変緊密に保たれ、その結果として効果のある教員研修を協働で実施することができた。その際に重要となったのが、担当者間の緊密な協議会の開催である。本研究に関しては10回の協議会を開催し、研修実施に向けての情報の報告・連絡・相談をおこなった。この協議会を開催することで、大学と教育委員会にあるそれぞれの「文化」をお互いに理解し合うことができ、スムーズな研修実施へとつなげることができた。

② 連携により得られる利点

本研究での連携を通して、国際教養大学と秋田県教育委員会との間で得られた最も大きな利点は、お互いの信頼関係である。勿論、以前から国際教養大学と秋田県教育委員会は連携し、様々な事業をおこなってきた。しかし今回、ひとつのゴールに向かい、お互いの担当者が頻繁に協議会を開催し、お互いの文化や考え方を理解しあう中から単なる連携以上の信頼関係を構築することができた。今後も、お互いに報告・連絡・相談による情報交換を進め、より良い研修の実施へとつなげていきたい。

③ 今後の課題

今後は研修で得られる成果を、どのように県内及び全国の教員に普及させていくかという点である。本研究では39人という比較的少ない参加者の下、プログラムを実施した。英語を指導するに当たり、不安を抱く小学校教員はまだ多い。今後、2020年からの小学校高学年での英語の本格実施及び、中学年への外国語活動の前倒しが決定されていることを踏まえ、なるべく多くの小学校教員への本プログラムの実施が不可欠である。その際に、5日間の研修を全員におこなうのは物理的に難しい。そのため、校内研修という形で本プログラムを実施すべく、短時間・短期間で本プログラムと同様の効果が得られるような改善・改良が必要になってくる。来年度は秋田県教育委員会と協働しながら、本プログラムの更なる発展及び普及へ向けて努力していきたい。

付録 1. Quick Reference (QR)

QuickReference

85 Useful Expressions for Teachers



FOR PREPARATION

準備のために

- A** When you want to start a discussion, go to A.
ALTと打ち合わせを始めたいときはAへ。
- B** When you want to explain your teaching procedure, go to B.
ALTに指導手順を説明する場合はBへ。
- C** When you want to ask questions, go to C.
ALTに質問や依頼をしたい場合はCへ。
- D** When you want to improve your teaching procedure, go to D.
ALTと指導手順を議論したい場合はDへ。
- E** When you are having trouble understanding what an ALT said, go to E.
ALTの言っていることが理解できない場合にはEへ。

IN THE CLASSROOM

教室で

- F** When you want to see essential expressions in the classroom, go to F.
授業で使う必須表現を確認したい場合はFへ。
- G** When you want to praise or encourage your students, go to G.
児童を褒めたり、励ましたりしたい場合はGへ。

FOR REFLECTION

ふりかえりのために

- H** When you want to reflect on the class you have taught, go to H.
ALTと授業のふりかえりをしたい場合はHへ。

A

- 1. Do you have time now?
いま時間がありますか?
- 2. Can I talk to you later then?
ではまた後で声をかけてもいいですか?
- 3. When are you available for a meeting today?
今日いつミーティングできますか。
- 4. I will be available after three.
私は3時以降なら空いています。
- 5. I want to [discuss / explain] the class for the fifth graders.
5年生の授業のことで【相談・説明】したいのですが。

B

- 6. This is my teaching plan (for the fifth graders).
これは私が考えた(5年生の)指導案です。
- 7. Let me explain the teaching procedure.
指導手順を説明させてください。
- 8. We will use the A/V room today.
今日は視聴覚室を使います。
- 9. The students will learn the names of some animals.
児童は、動物の名前を習います。

- 10. Could you introduce yourself in [English / Japanese]?
【英語・日本語】で自己紹介をしてください。
- 11. We will start the class with this game.
授業はこのゲームから始めます。
- 12. Activity 2 will go like this:
「活動2」はこんな風に進みます。
A) One student will show a picture card.
1人の児童が絵カードを見せます。
B) One student will say a word in [Japanese / English].
1人の児童が【日本語・英語】の単語を言います。

- C) [The other student / Other students] will say the word in [English / Japanese].
【もう一方の児童・その他の児童】は、その単語を【英語・日本語】で言います。
- D) The students in the group will take turns to show the picture card.
グループの児童たちは順番に絵カードを見せる役をします。
- 13. In Activity 3, ...
「活動3」では...
A) ... we are going to use this [worksheet / handout].
この【ワークシート・プリント】を使います。
B) ... we will put these [picture cards / word cards] on the blackboard.
これらの【絵カード・単語カード】を黒板に貼ります。
C) ... you will explain the game in English.
あなたが英語でゲームを説明します。
D) ... I will explain the game in Japanese.
私は日本語でゲームを説明します。
E) ... we will demonstrate the game.
私たちがゲームをやって例を見せます。
F) ... the students will work in groups of four.
児童は、4人のグループで活動します。
G) ... the students will play the game in pairs.
児童は2人組でゲームをします。
H) ... the students will do [rock-paper-scissors / janken], to decide who goes first.
児童はじゃんけんをして、だれが先にやるかを決めます。
- 14. The students clap their hands, ...
児童は手拍子をして...
A) ... and read these words on the beat.
これらの単語をリズムに合わせて読みます。

- B) ... and sing the song on the beat.
歌をリズムに合わせて歌います。
- 15. We will ask the students to stand up / sit down / sit on the floor.
生徒に【起立する・着席する・床に座る】ように指示します。
- 16. In this role-playing, you will be A, and I will be B.
このロールプレイでは、あなたがAさんを、私がBさんの役をします。
- 17. Do you have any questions so far?
ここまでで何か質問はありますか?

C

- 18. I have a question (to ask you).
質問したいことがあります。
- 19. What does "weasel" mean?
"weasel"とはどういう意味ですか?
- 20. How do you say "weasel" / イタチ in [Japanese / English]?
"weasel" (イタチ) は、【日本語・英語】では何と言いますか?
- 21. How do you pronounce this word?
この単語はどのように発音しますか?
- 22. How do you spell the word?
その単語の綴りを教えてくれませんか?
- 23. (Is it) "M" for "mountain" or "N" for "November"?
(それは、) mountainのMですが、それとも NovemberのNですか?
- 24. Could you write the word for me?
その単語を書いてくれませんか?
- 25. What is the difference between "big" and "large"?
"big"と"large"の違いは何ですか?

D

- 26. Do you have any suggestions for this teaching plan?
この指導案に何か意見はありませんか?
- 27. Do you think this will work?
このやり方どううまくいくと思いますか?

28. Can you think of any better ways to do this?
これをするのに何かもっといい方法は思いつきますか?

29. Can you think of a good activity using these words?
これらの単語を使ったいい活動は思いつきますか?

30. I think [the word / the activity] is too difficult for our students.
【その単語・その活動は】、児童には難しすぎると思います。

31. I think our students can [do it / understand it].
それなら児童も【できる・理解できる】と思います。

32. Could you make a sentence using "play"?
"play" を使った文を作ってくれませんか?

33. Can you make [the activity / the sentence] easier for our students?
【その活動・その文】をもっと易しくしてくれませんか?

34. Would you make [a worksheet / a handout] for the students?
児童用の【ワークシート・プリント】を作ってくれませんか?

35. I need a little time to think.
少し考えさせてください。(理解できなくて黙っているのではないことを伝える)

E

36. I'm sorry, but ...
すみませんが...
- A) ... I did not understand your explanation.
あなたの説明が理解できませんでした。
- B) ... I didn't understand you.
よく理解できませんでした。
37. Can you repeat that, please?
もう一度言っていたいただけますか?

38. I understand, but I can't express my ideas in English.
理解はできているのですが、自分の考えを英語でうまく言えません。

F

39. Is everybody here?
みんないますか?
40. Who's absent today?
欠席は誰かな?
41. Let's start today's lesson.
今日の授業を始めましょう。
42. Are you ready?
準備はいいですか?
43. Look at the [whiteboard / the cards].
【ホワイトボード・カード】を見なさい。
44. (Please) say it again.
もう一度言ってみよう。
45. Let's [play a game / sing a song].
さあ、【ゲームをしましょう・歌いましょう】。
46. Do you understand?
わかりますか?
47. Can you hear [me / it]?
【私の声・CDなど】が聞こえますか?
48. Repeat after [me / John-sensei / the CD].
【私・ジョン先生・CD】に続いて言ってみよう。
49. Take out your [textbook / handout].
【教科書・プリント】を出しなさい。
50. Put everything away.
机の上を片付けなさい。
51. Pick up your [pencil / pen].
【鉛筆・ペン】を持って。
52. Walk around and find a partner.
教室を歩いてパートナーを見つけなさい。
53. Come to the front.
前に出てきなさい。
54. Make pairs.
ペアを作りなさい。
55. Make groups of four.
4人のグループを作りなさい。

56. Sit in a circle.
円になって座りなさい。
57. Any volunteers?
誰かやりたい(答えたい)人はいますか?
58. It's [your / Taro's] turn.
【あなた・太郎君】の順番ですよ。
59. Do *jan-ken*.
じゃんけんをしなさい。
60. Winners, raise your hands.
勝った人は手をあげなさい。
61. Winners will go first.
勝った人が先にやります。
62. You have five minutes.
制限時間は5分です。
63. Let's start.
始めなさい。
64. Time's up.
終わりです。(活動などの終わりを告げる)
65. Put your [pencil / pen] down.
【鉛筆・ペン】を置きなさい。
66. How do you say "apple" / リンゴ in [Japanese / English]?
"apple" (リンゴ) は、【日本語・英語】では何と言いますか?
67. "apple" (リンゴ) は、【日本語・英語】では何と言いますか?
68. Did you enjoy the class today?
授業は楽しかったですか?
69. See you [later / tomorrow / on Wednesday / next week].
では【またあとで・また明日・水曜日に・また来週】。

G

70. That's right!
その通りです。
71. (You did a) good job!
よくできました。
72. Good guess.
いい答えだね。(正解でない場合でも可)
73. Keep going.
いいよ、続けて。(児童が途中でつまったり、躊躇した場合)

74. Good try.
頑張ったね。(うまくできなかったときでも可)
75. You are doing fine.
だいじょうぶ、できているよ。(児童が自信なさそうに活動している場合に)
76. Take your time.
時間をかけていいよ。(児童が無ったり慌てたようなそぶりを見せた場合に)
77. Don't be shy.
積極的に。(児童がしそりにしている場合や、自発的な発言が出ない場合に)

H

78. What do you think of our teaching today?
今日の授業についてどう思いますか?
79. I [think / don't think] the students enjoyed [the game / the activity].
児童は、【ゲーム・活動】を【楽しんだ・楽しめなかった】と思います。
80. I think Game 1 [worked well / did not work well].
「ゲーム1」は【うまくいった・あまりうまくいかなかった】ように思います。
81. [This game / This activity] may work better with [the fifth / the sixth] graders.
この【ゲーム・活動】は、【5年生・6年生】向きかもしれません。
82. We should improve the game.
ゲームを改善する必要があります。
83. How do you think we can improve our teaching today?
どうすれば今日の授業はもっとよくなると思いますか? (打ち合わせの段階でも可)
84. Do you think we should do this activity again?
これをもう一度やってもいいと思いますか?
85. I think we went too [fast / slowly].
授業のテンポが【速過ぎた・遅過ぎた】ように思います。

IV その他

[キーワード] 英語、小学校、ティーム・ティーチング、授業、コミュニケーション

[人数規模] C (小学校教員 39 名)

[研修日数] C (5 日間：8 月 5 日～9 日)

【問い合わせ先】

公立大学法人 国際教養大学

専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科

〒010-1292 秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱 193-2

TEL 018-886-5900

秋田県教育委員会

高校教育課英語教育推進班

〒010-8580 秋田県秋田市山王 3-1-1

TEL 018-860-5168